

みんなの
かなづかひ

2022

内容見本

はなごよみ

目次

「旧字旧仮名」？ 「正字正仮名」？	押井徳馬	4
歴史的仮名遣を知ってゐて得したこと	つばヶ淵つばめ	19
正かな何語書ける？	blueday	22
「正字・正かな」呼稱の誤解を解く	押井徳馬	24
愚想の寄せ集め 其の二	名賀月晃嗣	35
書 評		40
歩みの念 第六章	明日楨悠	42
A型作業所へ行かう	刑部しきみ	52
原稿を書いてみませんか		56

「旧字旧仮名」？ 「正字正仮名」？

押井徳馬

一〇二一年、インターネット上で二つのアンケートを実施しました。

三月一日～三十一日

「正漢字（旧漢字）」

・歴史的仮名遣について」

九月二十六日～十一月二十三日

「あなたはどう呼びますか？」



インターネット上、それも私を知る人が多めですから「偏りなく集められたサンプル」ではなく飽くまでも「参考程度」ですが、興味深い結果が出たので紹介いたします。文章も「旧字・新字混在」を「旧字」に寄せる等、文意を

損ねない範囲の最小限の編輯にとどめました。

「あなたはどう呼びますか？」

■戦後の国語改革より前に一般的だった「漢字」をどんな名前で呼びますか（複数選択可）。

（※漢字の話です。例：学校の櫻、國會での對應）

四十三件の回答

旧字（舊字）または旧漢字（舊漢字）	二十九人	六七・四%
正字または正漢字	二十人	四六・五%
本字または本漢字	四人	九・三%
基本字	〇人	〇%
繁体字（繁體字）	二人	四・七%

戦前の日本の活字で広く用いられた字形	一人	二・三%
康熙字典体	一人	二・三%
旧字体	一人	二・三%
康熙字典體	一人	二・三%
謂はゆる舊字體	一人	二・三%

■戦後の国語改革より前に一般的だった「仮名遣」をどんな名前で呼びますか（複数選択可）。

（※かなの話です。例：書いてゐる、言ふ、さいはひ）

四十三件の回答

旧仮名遣（旧かなづかひ、舊假名遣）	十八人	四一・九%
正仮名遣（正かなづかひ、正假名遣）	十七人	三九・五%
本仮名遣（本かなづかひ、本假名遣）	一人	二・三%
歴史的仮名遣（歴史的かなづかひ、歴史的假名遣）	二十七人	六二・八%
復古仮名遣（復古かなづかひ、復古假名遣）	一人	二・三%
かなづかひ	一人	二・三%
かなづかひ（※修飾語なし）	一人	二・三%
修飾無しの假名遣	一人	二・三%
伝統的綴字法、伝統綴字。	一人	二・三%

■戦後の国語改革より前に一般的だった「漢字と仮名遣の組合せ」をどんな名前で呼びますか（複数選択可）。

四十三件の回答

旧字旧仮名（旧字旧かな、舊字舊假名、舊字舊かな）	二十六人	六〇・五%
正字正仮名（正字正かな、正字正假名）	二十一人	四六・五%
本字本仮名（本字本かな、本字本假名）	二人	四・七%
正統表記	〇人	〇%
旧字歴仮名	一人	二・三%
「古い表記」	一人	二・三%
伝統的表記法、伝統表記。	一人	二・三%
旧字旧がな	一人	二・三%
歴史的假名遣及び謂はゆる舊字體	一人	二・三%

漢字は「旧字」「正字」やそれに類する呼び方が多数を占め、仮名遣も同様「旧仮名遣」「正仮名遣」が多数でしたが、それ以上に「歴史的仮名遣」が一番でした。それを現代の言葉として書く人も書かない人も普通に使用する事の多い、通りの良い言葉だからかも知れません。

■上記について、言葉の印象や選び方など、ご意見がございましたらお書き下さい。

五件の回答

歴史的仮名遣を知ってゐて得したこと

つばヶ淵つばめ

はじめまして！ つばヶ淵つばめと申します。毎年この同人誌を読むのを楽しみにしてゐましたが、まさか執筆に参加することになるとは。大変嬉しく思つてゐます。僕は専門家とかではなく大した人間ではないのですが、それでも歴史的仮名遣を扱へる人間の一人としてこれまで得をしたと感じる部分があつたので、みなさまにお伝えします。

まづあたりまへですが、古典語（明治以前の日本語を指してゐます）の理解が大変しやすくなりました。古典語の理解を妨げるものは語彙や文法、果ては常識の違いなどいろいろありますが、仮名遣の違いも大きいですよ。たとへば皆さんは「はふはふの体」と書かれてゐたら「ほうほうの体」のことだとすぐに浮かびますか？ 少し詳しい方

は考へれば浮かぶかもしれませんが、歴史的仮名遣では古典語だらうと現代語だらうと「はふはふの体」なので、それさへ知つてゐれば考へる手間すら必要ありません。現状では古典語と現代語で同じ語が同じ意味で使はれてゐても、仮名遣が異なるせいで理解が妨げられてしまふといふことになってしまつてゐてもどかしいです。ところで、「はふはふ」ってなんなのでせうか。小学館『全文全訳古語辞典』を見てみると、「這ふ這ふ」といふ漢字表記とともに『這いながら』の意」と書かれてゐます。ああなるほど「這ふ」といふ動詞が二つ重なつたものか、と合点がいつたあなた、「ほうほうのてい」しか知らなかつたらそんなこと考へもよらなかつたでせうし、言はれても全然ピンとこなかつたと思ひます。歴史的仮名遣は語源の推測や理解を強力に助

「正字・正かな」呼稱の誤解を解く

押井徳馬

正

漢字・正かなづかひ、略して「正字・正かな」。私達は國語改革以前から使はれてきた國語表記をこのやうに呼ぶ事があります。その表記で書く當事者だけでなく、書かない人であつてもさう呼ぶ事があります。しかし時にはこんな反應も返つてきます。

「『舊字・舊かな』は斷じて『正字・正かな』ではない」

「私は『舊字・舊かな』を愛するが『正字・正かな』と呼ぶ人は嫌ひだ。自分達が使ふ表記だけが『正しい』と勝手に極め附ける『正しさの押附け』の傲慢さがぶんぶん臭ふ」

誤解される理由

たとへば、このやうな理由を擧げて「『正字・正かな』と

呼ぶのは相應しくない」と呼ぶ人々がゐます。専門家の世界でさへ例外ではなく、「この先生は昔の漢字や古典に詳しいのだから、現代の言葉を『正字・正かな』で書く事にはきつと好意的だらう」と思つたら實は逆で、「『舊字・舊かな』は昔の文章の爲の表記であり、現代語には相應しくない」と言つてゐる人も一部にゐます。

・私達が學校で習ひ日常で使ふ「新字・新かな」を「誤」と極附けて見下してゐる

・舊漢字の手本とされる康熙字典は十八世紀、歴史的なづかひが出来たのは明治時代であり、「舊字・舊かな」の決まり通りに書かれた時代は短い

・舊漢字の手本とされる康熙字典は隸書・楷書の傳統的な形から外れた字形を採用してゐる

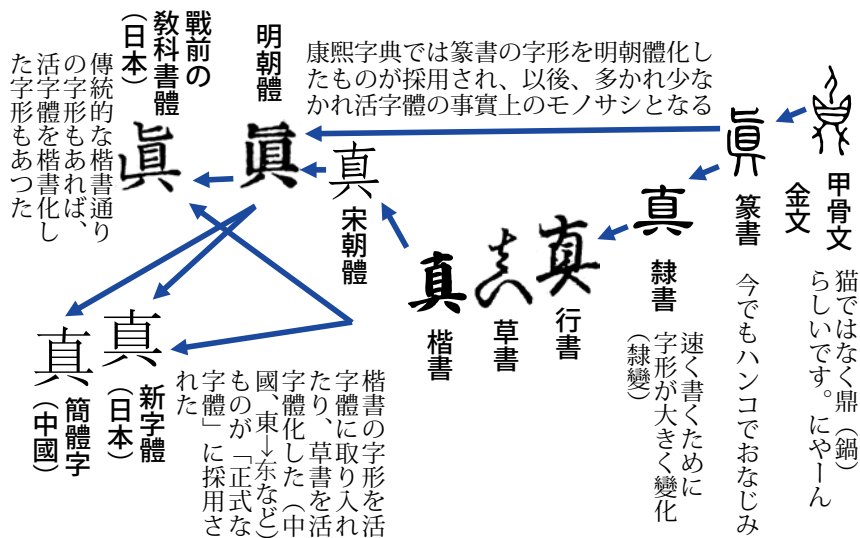


圖2 「真」の字體の變遷

■ここで調べませう
拓本文字データベース

<http://coe21.zinbun.kyoto-u.ac.jp/djvuchar>

史的文字データベース連携検索システム

<https://mojiportal.nabunken.go.jp>



實はこの資料そのものは正しく、また「真」の字が「昔の文章ではほとんど今の新字と同じ字で書かれてゐる」といふ部分についても正しいのです。

「舊字を擁護する人がそんな事言つていいのか」つて？ まあ焦らないで下さい。現實は一言で説明できるやうな簡単なものではなく、込み入つてゐます。

龜の甲羅や牛の肩甲骨に彫つて書いた「甲骨文字」が現代の漢字の元になつた事はきつとご存じでせう。そこから篆書、隸書、楷書、明朝體と新しい字體が育つていきました。篆書以降の系統は、「篆書寄り」の字體と「隸書寄り」の字體の大雑把に二つに分けられます。篆書は現代でもハンコで生き残つてゐますが「彫る」ための字體でした。速く書くのには適さないもので、後に線を簡略化（隸變）して速く書ける「隸書」が生れ、現代の私たちが日常讀書きしてゐる楷書も明朝體も、この隸書の子孫と言へます。紙に筆書きするのに適した楷書、直線的で木版を彫るのに適した

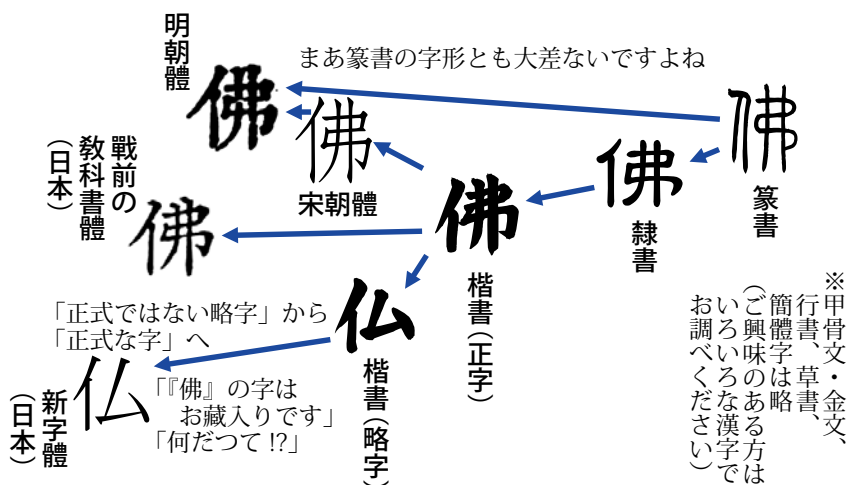


圖3 「佛」の字體の變遷

音も表さない)「ム」で省略した「仏」の字も生れましたが、これはあくまでも略字で、楷書でも正式の字形は「佛」でした。明朝體も同じく「佛」でした。

こちら明朝體後の「当用漢字字体表」で「仏」の字を「正式な字」にされてしまいました(「拂」も「払」になりましたが、「沸」「費」はそのままと、略し方はばらばらでした)。先程の「真」と異なる部分はどこでせうか。「真」は「書道の傳統として正式な字形」でしたが、「仏」は書道の傳統から見ても正式な字形ではなく、飽くまでも「略字體」でした。「略字をあたかも正式な字であるかのやうにして、學校で兒童に教へ込むとは何事か」と怒った人も當時は多かつたやうです。



圖4 「佛」の字の古例の一部
(拓本文字データベース)

「真」の形は隷書で字形が大きく變つた(隷變)ことで生れましたが、「佛」は字がほとんど變らなかつたのです。後に右側の旁を(意味も

愚想の寄せ集め 其の二

名賀月晃嗣

こ れを書いてゐるのは、令和三年十月三十一日の衆議

院議員総選挙が終はつた後、特別國會が召集される
までまだ何日かある、といふ頃合ひ。自由民主党は事前に
心配したよりも數を減らさず、立憲民主党と日本共産黨の
合作は期待されたやうな効果を上げなかつたので、安堵し
てゐる。世に心配の種は盡きず、明日をも見通せぬ様相は
しばらく續きさうだが、いつの世も一寸先は闇、善意で道
を敷いてもうつかりすると直ぐに地獄に通じてしまふのだ
から、あんまりよくよくしても仕方ない。

何を書かうか、あれこれ考へたものの、結局今年も取り
留めのない文章を綴ることになつてしまつた。筆者の文章
的才能、あるいは表現的才能は所詮その程度であつたとい
ふことで、御笑覽頂ければ幸ひである。

ワクチン

昨年（令和二年）以來、新型感染症が猛威を振るつてゐ
る。これを押さへ込むための方策の一つとして、ワクチン
を多くの人々に接種する、といふことがある。今度の感染
症に對するワクチンについては、その開發の迅速さや有効
性の高さにとても驚いたし、mRNAワクチンのやうな新し
い技術の登場に知的好奇心をくすぐられたりもした。

生來病氣持ちの筆者は、開發されたワクチンがどうやら
良く効いて、をかしな副作用の心配も薄いといふことが分
かつた段階で、それならさくさく接種して欲しい、と思つ
たわけだが、世の中さういふ人ばかりではない。ただ慎重

歩みの念

文・明日楨悠

六

澄み切った空が、こんなにも遠い。

御興は千禰の手に引かれ畦道を揺れていく。後ろを支へる若彦の腕もやさしく撓ふ。

水田は鏡となり高く突き抜けた空の碧さを映す。さざめく稲の中に一羽、白鷺が下りて身繕ひをはじめ。彼方には深緑の山影が連なっている。

何故に、心が痛むのだらう。手の届くことのない綺麗な色が、眼にばかり刺さるからか。千禰は眩しさうに瞬きた。……

見渡すかぎりの田畑、そのひとつの畑に、多くの人が笠

を被って集まってゐる。

「何かしら」

「畑仕事をしてゐるよ」

薄く金のかった穂波が寄せては返す。ゆっくり近づくにつれ、そこにある一人一人や作物の形がはっきりしてくる。十数人も農家の方々が、唄ひながら鎌を使って穀物の刈取りをしてゐる。篝のやうな穂を垂れて、稲にそっくりだがもつと色が濃い。収穫は手早く束ねられ、稲木へと干されていく。

「ここでは何を植ゑてらっしゃるんですか」

千禰は関心のままに声を掛けた。農夫のひとりが顔を上げ、親切に答へてくれる。

「黍だよ。かう稔るとすぐ雀が来て食べるから、急いで刈取りを済ますんだ」

寸暇を惜しむとばかり、農夫はまたさっさと手を動かしだす。皆と唄も口ずさむ。

千禰と若彦は、しばし足を止めて人々が黍を收穫する様子を眺めた。

この人数からすると、畑を持つ農家だけでなく、近隣の住民たちも手伝ひに出てゐるのではと思へる。わざわざそこまでするのは、刈入れが遅れでもしてせっかくの黍が雀に食べられては気の毒だからといふ、曇りなき氣遣ひなのだらう。働き盛りの青年や、熟練の年配者もあれば、五月には田植をしてゐた早乙女や、これから仕事を覚えていく若い衆も立交つてゐる。困った時はお互ひ様だといふ心が、根っから染みついてゐるに違ひない。

「あのう、私達も手伝ひませうか」

氣がつけば、若彦に尋ねもせず畑に向けて千禰は名乗りを上げてゐた。唄ふ声を揃へて作業をする皆の仕草が充実して見えたからだ。畑の人々は快く千禰たちを招いてくれた。

「いいけどもさ……」

とぼつちりを受けた形で、若彦はおずおずと耕された土壌に足を踏み入れた。途端、自然の香が鼻先に濃く漂ってくる。やることをやらなければと、すぐに氣が引き締まった。

手に手に鎌を握り、声を合せてしなる黍の穂に刃を入れる。くつきりと翠微を縁どる青空に唄声は朗々と響き渡った。

御輿は田圃道の端に坐して、皆の働きをじっと見てゐた。

一同はへとへとに草臥れて、おんなじ田圃道の片方に腰を下ろした。ちやうど午過である。農家のをばさんが皆におむすびを配ってくれた。竹皮に包んであるそれを千禰と若彦は御輿の前にお供へして、それから頬張った。

布巾で汗を拭ひ拭ひ、農夫はふたりを勞てくれた。

「君たちもお御輿を担いでゐたのに、有難う。助かりました。うちの村にや珍しい立派な茶屋があるから、どうぞ寄つていきなさい。その茶菓子は格別だつて評判だから」

「是非とも伺います。方角はどちらでせうか？」

茶屋と聞いて千禰が身を乗り出すと、をばさんが、

「村はあつちだよ」

とどこまでも続く田圃道の先を指差した。遙かなる山麓にひらかれた村のやうだが、この分では茶菓子にありつく前にまた草臥れなければならなさうだ。

まごついてふたりで目を見合せてゐると、若彦の隣に屈んでゐた別のをばさんが、

「ここに来る前ね、表で晶ちゃんを見かけたよ。どこ行く

A型作業所へ行かう

文：刑部しきみ

唐突だが、A型作業所の事を書いてみたいと思ふ。正式名稱「指定就労繼續支援A型作業所」は知的、精神、身體、發達、難病、となかなかよりどりみどりで何かしらに障害のある人間の就労する所で、私はその中で「精神」の區分で對象となつてゐるタイプの障害者である。「行かう」なんてタイトルではあるが、A型作業所のサービス（さう、作業所といふのはサービスなのだ）を受けられるのは障害者だけなのだ。

なにゆゑ作業所なんぞに行つてゐるのか、と云はれれば單に「精神以外の持病だらけで金が無い」のである。年金受給で實家暮らしのアリエッティ、ではなく、こども部屋をばさんとしては、無駄遣ひせずに體が健康であればそれに慎ましく暮らせるのであるが、なにせ糖尿病に大腸の潰瘍、過敏性大腸炎にチョコレート嚢胞と病氣のデパート

であるからして、本當に病院代だけで死んだ方が安い！今すぐ死ね！といった狀況であり、死ぬか金を稼ぐかを選択肢がなく、勞働は惡だと思つてゐる立場からすれば、なるべく年金を貰へる範圍内でやつていきたく、そして病氣に理解があるといへば作業所で就労するのが最適解であると考えたからである。

實は作業所にはハローワークから行くのが王道といふか、まあ普通なのだが、私の場合は「求人情報誌で見た」であり、かなり特殊である。無料で貰へるやつをスパーでたまたま見つけて、その號がたまたま「障がい者雇用支援キャンペーン」といふ特輯をしてをり、そこで一番近所の作業所に求人情報誌のメルフォを使つて、お問ひ合はせメールを送つた次第である。「まずはお気軽にお電話ください（原文ママ）」の一文を全く無視して。さうしたら次の日、

原稿を書いてみませんか

中

国語の表記に、中国本土とシンガポールでは使はれる「簡体字」と、台湾や香港では使はれる「繁体字」があるのと同様、日本語の表記にも漢字と仮名についてそれぞれ二種類あります。「正漢字」（いはゆる「旧漢字」）と「新漢字」、「正仮名遣」（いはゆる「旧仮名遣」、「歴史的仮名遣」と「新仮名遣」（「現代仮名遣い」のこと）です。

「正漢字」や「正仮名遣」は、絶滅した国語表記ではありません。過去文献の引用、短歌や俳句をはじめとした芸術において、現代でも細々と使はれてゐます。

現代において、「正漢字」「正仮名遣」を読んだり書いたりする方には、様々な立場の方がいらつしやいます。

- ・過去文献の引用に限り正字や正かなで書きたい
- ・短歌や俳句に限り正かなで書きたい

- ・ブログや芸術作品等を正字や正かなで書きたい

- ・今のところ書く事はしないが、正字や正かなで読みたい

本誌は、そんな皆さんを応援する為に、「全頁歴史的仮名遣（固有名詞や引用文は除く。また、漢字は正漢字を歓迎するが新漢字も可）の同人誌」として毎年発行してゐます。

原稿募集のお知らせ

「正漢字」「正仮名遣」は、読むだけでも十分楽しめますが、実際に書いてみると更に楽しめますし、学ぶ近道でもあります。皆さんも試してみませんか。

『「正字正かな」で原稿を書いても印刷を断られたり、『新字新かな』に直されたりする』のが残念ながら当り前の現

在、本誌は『正漢字』『正仮名遣』の原稿がそのまま掲載される」のが「当り前」の、謂はば「解放区」です！

募集内容

- ・ 毎号のテーマに基づく随筆や論攷等（テーマ投稿）
- ・ 漢字や歴史的仮名遣について、国語国字問題について
- ・ コンピュータで正漢字や歴史的仮名遣を使ふテクニク
- ・ 歴史的仮名遣による詩歌、小説、随筆、漫画等の作品
- ・ 半ページ〜四分の一ページ程度の短いコラム

国語問題に関する記事が多く集まる本誌ですが、テーマや国語問題に関係しない記事もむしろ歓迎いたしますので、お気軽にお書きください。

毎年秋発行、次号〆切は、二〇二二年九月頃を予定してゐます。次号のテーマはウェブサイトで発表予定です。

なほ、執筆者や校正・組版等の作業を手伝ってくださつた方には、完成した冊子を二冊無料進呈致します。

投稿方法

本誌への投稿には、グループへの入会や会費のお支払い

は必要ありません（逆に、原稿料もお出しできません）。ただし、スムーズな聯絡^{れんらく}の為に、原則として電子メールアドレスをお持ちの方に限定致します。「はなごみ」のメールアドレスまで、ご遠慮なくメールでお問合せください。原稿も、メール本文に書いていただくか、メールにファイルを添付してお送りください。なほ、記事に関するご確認のため、編輯・校正・組版担当者にメールアドレスをお伝へ致しますので、あらかじめご諒承ください。

また、スムーズな編輯・校正の為、以下の情報もメールでお知らせください。

①ペンネーム

- ②掲載ご希望の方はTwitter IDや電子メールアドレス（読者からの聯絡先として、なるべくご記入ください）
- ③ジャンル（解説、評論、小説、詩歌、随筆、漫画等）
- ④内容（国語教育に関するエッセイ、学園もの小説等）
- ⑤未完成の場合は予定文字数（文字数か原稿用紙換算）
- ⑥漢字、仮名遣

（正字正かな・新字正かな・広辞苑前文方式・新字新かな）

正字正かな 「櫻色のバッグを持つてゐる」

新字正かな 「桜色のバッグを持つてゐる」

広辞苑前文方式 「桜色のバッグを持つて居る」

新字新かな

「桜色のバッグを持っている」

↓ 「桜色のバッグを持つてゐる」

に直して印刷

(ご希望により新字正かなではなく正字正かなにも直せます)

⑦捨て仮名(ひらがなカタカナとも使ふ・カタカナのみ

使ふ「推奨」・使はない)

ひらがなカタカナとも 「桜色のバッグを持つてゐる」

カタカナのみ使ふ 「桜色のバッグを持つてゐる」

使はない 「桜色のバッグを持つてゐる」

一) 新字正かな兼新字新かなの事。ひらがな・カタカナとも捨て仮名使用推奨。言葉選びの難易度が高いので、歴史的仮名遣に十分慣れた人向けです。

二) 小さい「や」「ゆ」「よ」「う」の事。

ファイル形式

文章は原則としてテキストファイルでお送りくださるか、メール本文にそのまま書きください。ワードや一太郎等ワープロソフトのファイルでも構いませんが、文章校正機能を使用可能なワードまたはLibreOfficeを推奨します。

くの字点(ゝ・ゞ)は「／」「／」で代用しても構ひません。「正字正かな」をご希望の方は、コンピュータの一般的な文字コードに無い文字(二点之繞や「示」の形の示偏の漢字等)は新字で代用するか、注意書きを附加してください。編輯時に、フォントに字形のある範囲で、印刷用の正しい字形に直します。

写真やイラストや図ですが、残念ながらカラーは出ません(口絵を除く)。画像ファイルは、原則として文章とは別にお送りください(ワードで位置決めした内容をそのまま使ふのではなく、こちらで組版ソフトを使つて組み直すので、元ファイルが必要です)。また、可能な範囲で、縮小されてゐない、なるべく大きなサイズをご用意ください。なほ、本誌のサイズはA5版です。詳しくはメールでお問合せください。

著作権について

皆様の原稿は、「同人誌(紙版および電子書籍版)」の原稿として「および」必要に応じ、同人誌頒布の際の内容見本として「使用しますが、作者に許可をいただかない限りは、それ以外の目的(他の本の原稿に転用する等)」では使用しません。

また、前述の目的に限って、皆様の原稿を使はせていただきますが、原稿の著作権そのものを譲渡していただくといふ意味ではありません。後でご自分の原稿を（ウェブサイトに載せたり個人誌・同人誌・商業誌に載せる等）どう活用していただくかは、お任せします。

それでは、皆さんの作品を心よりお待ちしております。



本の DIY で……更に表現の自由！

従来は……



~~正漢字・
歴史的
かなづかひ~~

で書くのは
自由でも



→
修正

新漢字・
現代
仮名遣い

に直して
出版します

これからは……



~~正漢字・
歴史的
かなづかひ~~
(本誌はこちらが原則)

新漢字・
現代
仮名遣い

どちらもパソコンで自己出版